

平成の大横綱 貴乃花の美学、矜持を垣間見る

元横綱貴乃花は平成の大横綱であり、角界のプリンスとして日本の相撲界を背負って立つ男と大いに囑望されていたのだが、ご存知の通り貴ノ岩の暴行問題に端を発したゴタゴタで自ら角界を去ってしまった。

彼のファンとして誠に残念でならない。

その貴乃花関に偶然出くわし、話をし、2ショットに納まることが出来た平成の思い出話を少し披露したい。

貴乃花関が現役を引退するキッカケとなったのは、2001年(平成13年)5月場所14日目、武双山戦で半月板損傷という大怪我を負い、千秋楽、無理を押し出場で、本割で武蔵丸に完敗して優勝決定戦に、誰もが武蔵丸の優勝を信じて疑わなかった中、執念の上手投げで22回目の優勝を決めたが、その代償は大きかった。

私が貴乃花関に出くわしたのは、その優勝から2ヶ月後ぐらいであった。

パリ発成田行き飛行機の中で、貴乃花関は半月板治療で渡仏の帰り、私は仕事でジュネーブからの帰りであった。

当時私はJT(日本たばこ産業)が9,200億円という大金を叩いて買収した海外たばこ製造ビジネスの責任者として買収効果を発揮させるべく走り回っていた。

当日の貴乃花関はザンバラ髪で、半袖Tシャツ短パン草履履きと超ラフな姿で私のすぐ後ろの席に陣取っていた。

私は旅の疲れも忘れ、彼のファンとして成田到着の前までに一枚2ショットをお願いしようとして期待していた。翌朝、彼が目覚めた頃を見計らい写真をお願いしたらあっさり断れてしまい、大変ショックであった。

それから暫くして、後から肩をトントされ、「先ほどは大変失礼いたしました。一応身なりを整えましたので、宜しかったら一緒に写真を撮りましょう」と声を掛けられ今度はビックリ。見ると髷を結び、夏物着物をしっかり着込みビシッとしていた。

私はちょっと緊張して写真に納まった。

その時、私はやっと気付いた。そして少し恥ずかしくなった。

これがプロ、横綱貴乃花の美学、矜持なのだ。

その後、1時間ほど色々な話をしながら飛行機を降りた。

空港の係員や乗客からは私を横綱の付け人と勘違いされたようで、VIP扱いで入国を済ませることが出来たというおまけ付きもあった。

(2019年2月記)



【横綱貴乃花と筆者】